

国際教養学部
School of International Liberal Studies

2021 年度
国際教養学部生のための
海外留学の手引き



Study Plan 1 (SP1)

目 次

留学に関する窓口	1
スケジュール	2
1. はじめに	3
2. 留学の種類	5
- 国際教養学部箇所間協定プログラム	
- 私費留学	
3. 非英語圏への留学について	10
4. 留学の準備	10
5. プログラムの選択にあたって	10
6. 留学までの手続き・日程等	11
7. 【重要】留学の適性判断について	12
8. 留学出発前および帰国後の手続き等	13
9. 留学中に取得した単位の認定について	15
10. 【重要】留学中の学費等納入について	17
11. 留学中の奨学金について	18
12. 留学免除について	18
13. 卒業学期について	18
Q&A よくある質問（出発前）	19
Q&A よくある質問（留学中／留学後）	23

留学に関する窓口

国際教養学部と留学センターの役割

大学全体の留学プログラムは、留学センターが窓口となります。国際教養学部では箇所間協定留学プログラムと私費留学について対応しています。主な役割は以下のとおりとなります。

留学センター [CIE]

Center for International Education



国際教養学部 [SILS]

School of International Liberal Studies



A. 事務所 [22号館4階]
B. WASEDA Global Gate
[22号館1階]

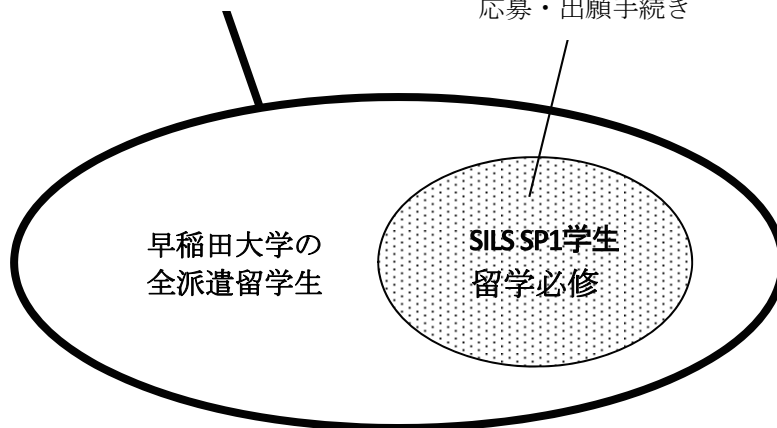
A. 対面相談：事務所 [11号館4階]
B. ZOOMにて相談

留学全般に関する事項

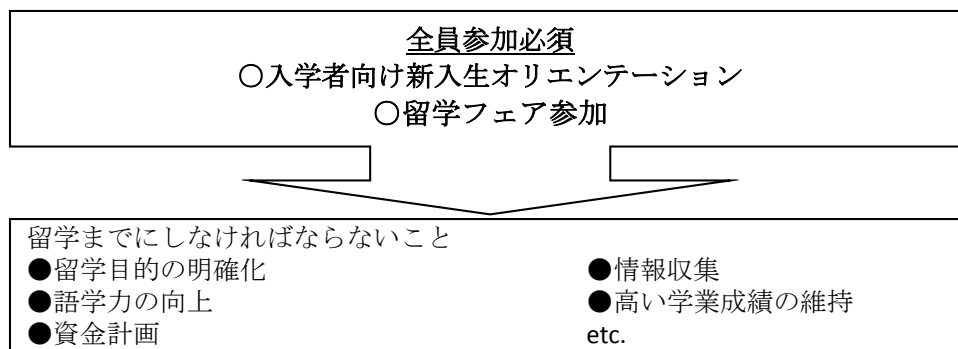
留学プログラムの応募・出願手続き
留学先・留学経験者の資料の閲覧
留学に関する相談
留学に関する奨学金 etc.

SILS カリキュラムに関連した事項

単位認定の相談
留学に関する相談
(適正な留学時期、上級演習の履修時期
と単位、志望校の選定、応募種類、等)
国際教養学部箇所間協定プログラムの
応募・出願手続き

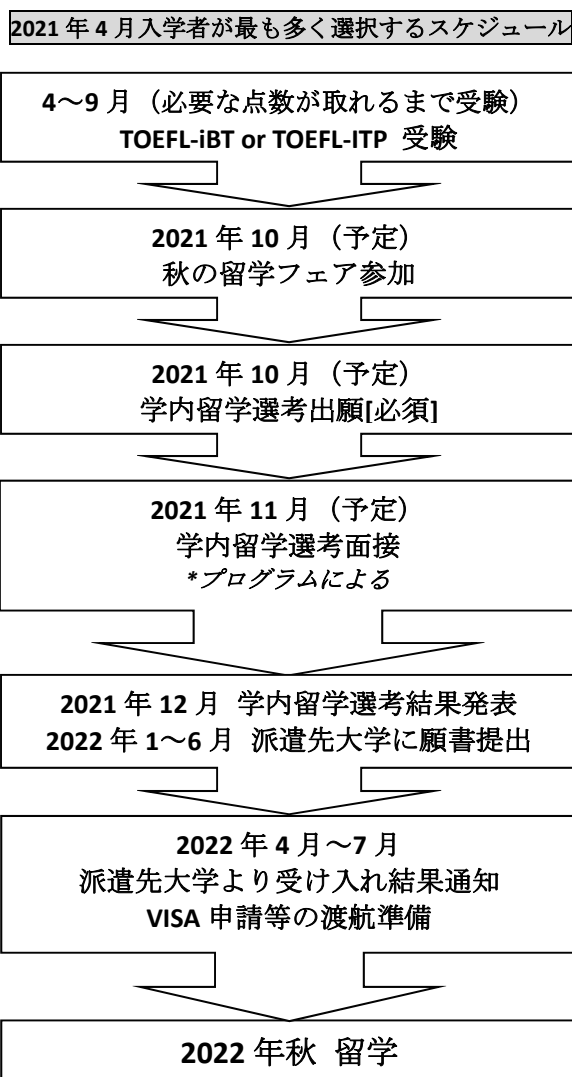


スケジュール



*具体的な日程は各学期の留学フェアで発表されます。

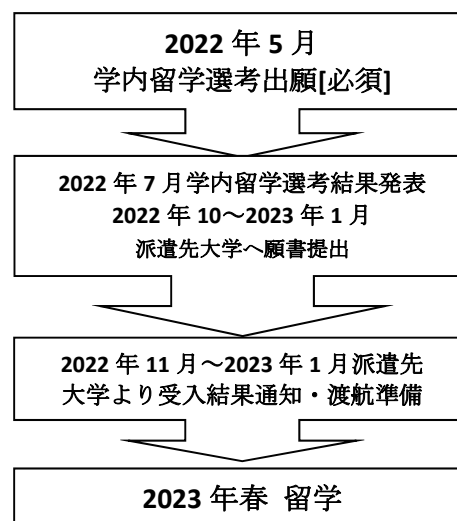
2022 年秋留学出発の場合



[2022 年春留学出発の場合]



[2023 年春留学出発の場合]



海外留学の手引き

1. はじめに

国際教養学部では、Study Plan 1 (SP1) の学生は、外国の大学（またはこれに相当する高等教育機関）に 1 学年相当期間在学し、教育を受けることを必修としています。国際教養学部の目標である、“多様な文化を理解し深い教養を身につけた人材の養成”のために、海外留学の経験がきわめて重要であると位置づけているからです。

多くの学生は**3 セメスター終了後（9 月入学の場合 4 セメスター終了後）**から留学を開始します。それ以外の時期に留学する選択肢もあります。**1 セメスター（半年）の留学を 2 回繰り返すことにより 1 年留学の必修要件を満たすことはできませんので、ご注意ください。**

海外の大学で 1 年間で過ごし、そこで自分と異なった文化や価値観に実際に触れることは、何事にもかえがたい貴重な経験です。海外留学において、ときには困難な状況に直面するかもしれませんが、全く異なる環境で、実際に自分の力で考え、乗り越えていくという経験をすることによって、今までとは別の視点から、自分や他者について考えることができるようになり、人間的な成長を遂げることができるはずです。

異文化の中で自分を見つめ直すこと、自分と異なった価値観を尊重する意義を学ぶこと、このようなところに海外留学の意義があると考えます。

4 月入学者が 2 年次秋学期から 1 年間留学するために、1 年生の秋、**つまり入学から半年後**には選考が行われることとなります。9 月入学者が秋学期から始まる留学プログラムに参加する場合は、2 年次秋学期に選考が行われます。どの大学に留学するかは、十分に検討した上で決定されるべきものです。そのためにも、この『手引き』をよく読んで準備を進めてください。

留学への第一歩は、まず情報を集めることから始まります。

とはいえ、世界中にどんな大学があるのかは、なかなか把握できないものです。また、一口に大学といっても、その種類、特徴、学部、カリキュラムの内容、更には場所や現地の風土・文化といった環境に至るまで実にさまざまです。

そこで早稲田大学では、**留学センター**（Center for International Education : **CIE**）が学生向けに毎年「留学フェア（春・秋）」を、それぞれ 4 月下旬または 5 月上旬と 10 月上旬頃に開催しています。

また、国際教養学部では、科目「Introduction to Cross-Cultural and International Education（異文化・国際教育入門－留学準備講座－）」を開講します。この科目では、世界各国の政治、社会、文化、習慣、教育制度などを学ぶことができ、留学先を選定する際の有用な情報を得ることができます。ぜひご登録ください。

希望大学がいくつか絞り込めたら、そこからは自分で興味のある大学のホームページを確認したり、先輩の経験談を聞いたりする等の方法で更に知見を広げていくことが必要です。また留学センター（CIE）では、22号館1階に協定校のパフレットや留学体験記など閲覧できる WASEDA Global Gate(WGG)を設置しています。

HP: <https://www.waseda.jp/inst/cie/access>



グローバル・ネットワーク・センター（GNC）について

国際教養学部では、留学サポートの充実のため、グローバルネットワークセンター（GNC）を開室しています（11号館4階）。学部にも所属する海外経験が豊富な助手が GNC 内の SILS アドバイジングで、個別に留学の相談を受け付けています。漠然とした不安をお持ちの方は、ぜひ一度相談してみてください。その他国際教養学部生のために様々なサービスの提供を行っています。詳細は GNC のホームページをご確認ください。

HP: <https://www.waseda.jp/fire/sils/students/support/>



学内の選考過程においては、**GPA** と **語学の能力** が非常に重要になります。

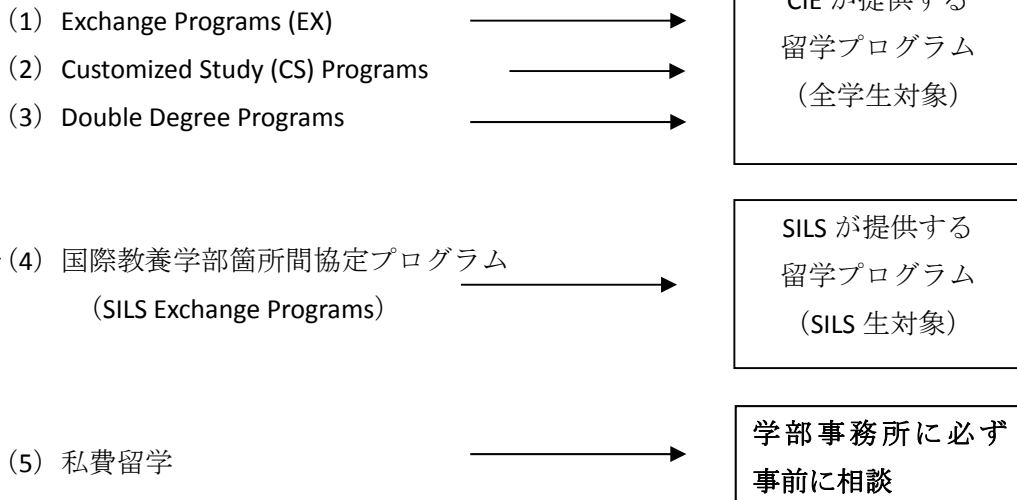
ほとんどのプログラムで出願に必要な **GPA** と **TOEFL-iBT**（または **TOEFL-ITP**）・**IELTS** 等の語学スコアが設定されています。**TOEFL-ITP** は正規のスコアではありませんので、一部の限られたプログラムでしか使用できません。積極的に **TOEFL-iBT** を受験してください。また、**TOEIC**、英語検定のスコアなどは学内留学選考では使用できません。なるべく早い時期に正規の **TOEFL-iBT**（**IELTS**）を受験し、高得点の取得を目指してください。**TOEFL** スコア自体は、受験後、2年間は有効とされています。他の言語の場合は、それぞれに検定方法（フランス語検定、ドイツ語検定など各語学による検定制度）が異なりますので、事前にチェックして、適切な語学能力証明ができるようにしておいてください。

9月入学者の方を中心に、入学前に取得した **TOEFL-iBT** のスコアが有効期限を過ぎているために出願ができないケースが見受けられます。ご注意ください。

なお、この「国際教養学部生のための海外留学の手引き」以外に、留学センターが発行している全般的な留学に関する資料として、『**2021-2022 留学の手引き**』があります。留学センターは、前述のように早稲田大学の留学プログラムを統括している箇所ですので、本手引きと併せて、必ず熟読してください。

2. 留学の種類

留学制度は大きく分けると次の5つがあります。



(1) ~ (3) は『**2021-2022 留学の手引き**』（留学センター発行）にてご確認ください。
この冊子では、(4) 国際教養学部箇所間協定プログラムと (5) 私費留学について説明します。

(4) 国際教養学部箇所間協定プログラム

以下のプログラムは、SILS が独自に海外の大学と協定を結び、本学部所属生のみを派遣することができるものです。派遣形態は上記 (1) 交換留学制度と同様で、早稲田大学への学費等の納付により、派遣先大学の学費が免除されます。

No	Institution & Country
01	University College Maastricht (UCM), Maastricht University, The Netherlands
02	School of Humanities, Social Sciences and Law, Lahore University of Management and Sciences (LUMS), Pakistan
03	Faculty of Humanities and Social Sciences, Victoria University of Wellington, New Zealand
04	Bachelor of Arts Program in Language and Culture (BALAC), Faculty of Arts Chulalongkorn University, Thailand
05	Underwood International College (UIC), Yonsei University, South Korea
06	Faculty of Humanities; Faculty of Social Sciences, University of Copenhagen, Denmark

07	Faculty of Social Sciences (FOSS), The University of Hong Kong, Hong Kong
08	East Asia International College (EIC), Yonsei University, South Korea
09	Yuanpei College, Peking University, China
10	College of Liberal Studies, Seoul National University, South Korea
11	Sciences Po Aix-en-Provence, France
12	College of Social Sciences, Koc University, Turkey
13	School of Communication, Hong Kong Baptist University, Hong Kong
14	School of Journalism and Communication, Faculty of Social Science The Chinese University of Hong Kong, Hong Kong
15	Institute for Higher Social Communication Studies, Belgium
16	Vesalius College, Belgium
17	Roanoke College, USA
18	University College Freiburg, University of Freiburg, Germany
19	Yale-NUS College, Singapore
20	The School of Business Management and the Faculty of Economics and Communication BINUS University, Indonesia
21	The College of Business , Universiti Utara Malaysia, Malaysia
22	Faculty of Humanities and Communication, CEU San Pablo University, Spain

※GPA2.5 以上が必要となります。

※募集人数は 1 名から 2 名です。

※年度によって募集しない場合がありますので、ご注意ください。

(5) 私費留学

国際教養学部（以下 SILS）では、私費留学について次のように定めます。希望する学生は内容をよく読んで、**出発の半年前までに国際教養学部**に相談してください。

①対象学生

1) SP1 学生

○1年間の海外留学（必須）に相当する留学を希望する場合（1年間）

○卒業要件となる留学プログラムを終了し、更に留学を希望する場合（1学期間または1年間）

※この場合、所定年限（4年間）で卒業できなくなる可能性が高いので、ご注意ください。

※2008年度以前の入学者は、私費留学を理由に上級演習（必修）の履修を免除することは出来ません。

2) SP2 学生

○1学期間または1年間の留学を希望する場合

②対象プログラム

下記条件を全て満たしている場合に「在学（留学）」として認められる場合があります。

1) 海外の大学や高等教育機関から提供されているプログラム。

2) 留学センター（CIE）および SILS から提供されている留学プログラムと同等以上のレベルで、かつ、原則として既存のプログラムではカバーされていない内容。

※語学留学やワーキングホリデー、独自のインターンシップ等のプログラムは、留学としては認められません。早稲田大学を「休学」し、参加することになります。

※夏休みや春休み期間等の短期の海外留学プログラムは対象外とします。

③留学期間

1) 1年間 [4/1～翌年 3/31 または 9/21～翌年 9/20]

2) 1学期間[4/1～9/20 または 9/21～翌年 3/31]

※学籍上の留学期間は上記の何れかになります。ただし、特別な事情があると判断された場合は、1年間を上限とした延長が認められることがあります。

④留学期間の取扱・学費

※学内基準に則るため、今後、適宜変更する可能性があります。

学籍状態	留学期間	単位	学費
[留学] とする場合	留学期間を在学年数に算入するには、 単位認定が必要	申請に基づき科目毎の単位認定を行う	¥51,500／各期の在籍料に加え、単位認定をする場合は認定料を支払う
[休学] 私費留学の場合	留学期間を在学年数に算入しない	単位認定なし	¥51,500／各期の在籍料を支払う

※2006 年度以降の入学者が私費留学中の取得単位を SILS における卒業必要単位に算入する場合には、単位認定料が発生します。1 単位あたりの単位認定料は、当該年度の科目等履修生聴講料 1 単位相当額とします（2021 年度出発プログラムの場合：50,300 円／1 単位）。なお、留学中の学費（在籍料）と単位認定料の合計額は、当該学期・学年の学費を越えないものとします。

※2013 年度までに入学した方は、第 3 セメスターに基礎教育充実費（5 万円）が可算されます。

※第 8 セメスター目は校友会費（¥40,000）が可算されます。

⑤単位認定

1) 次の範囲内で単位認定を行います。

系列	単位数
卒業必要単位 (自由選択科目)	科目ごとに 40 単位を認定総数の上限として認定。 ※必須の留学を終了し、更に私費留学をしようとする場合でも在学中に認められる認定可能な単位数は 40 単位 です。

2) 単位数の目安

単位認定数は、それぞれの参加プログラムにおける、1 年間の標準履修単位（科目）数（Standard Course Load）を基準にして、**取得単位数**、**授業時間数**、**科目内容**、**難易度**、**成績**等を考慮のうえ、科目ごとに成績とともに算出されます。なお、留学先大学において 1 年間の標準履修単位数をすべて優れた成績で取得した学生は、SILS の 2 学期分相当として**平均 32～36 単位**が与えられます。

3) 証明書の記載

SILS では、通常の留学の単位認定は一括して行い、証明書等には認定科目（海外学習期間）**Transferred (Study Abroad)**として表記していますが、私費留学の場合は、科目単位の申請に基づき認定します。証明書等には他の取得科目同様、基本的に取得科目名（英語名称）のまま科目別に成績とともに表記されます。

⑥SILS における申請の流れ

1) 事前相談

私費留学の希望がある場合は、私費留学を開始する学期の半年前までに事前に SILS 事務所に相談してください。教務主任との面接も交えて、今後の可能性について検討します。

2) 提出書類

私費留学を開始する学期の3 か月前までに次の書類を提出してください。

- ① 私費留学願（所定書式）
- ② 学修計画書（所定様式）
- ③ プログラムの概要がわかる書類

3) 審査

留学委員会の審査により私費留学の適用可否が決定されます。

⑦留学～帰国～復学

[留学中]

私費留学は自己責任において行います。早稲田大学のサポート等は制限されますが、早稲田大学指定の海外旅行保険の加入は必須です。

[帰国後～復学]

1) 帰国：以下の書類をすべて提出してください。

- ① 「在学期間証明書」1部（受入機関発行のもの）
- ② 「成績証明書」1部（受入機関発行のもの）

・提出書類の不備や、計画と違う内容である場合は、留学の取り消しをすることがあります。

2) 単位認定：成績証明書を事務所に提出して、留学単位認定申請フォームを入力してください。

3. 非英語圏への留学について

留学する地域・大学は皆さんが自由に選ぶことができます。英語圏のみならず、非英語圏のプログラムも多数あります。非英語圏へ留学する場合、早くから語学の勉強を始める必要があります。

国際教養学部では第二外国語としてフランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、朝鮮語の6種類の授業を設置しています。詳しくは科目登録の手引きを確認してください。言語の習得には時間がかかるので、大学入学後に勉強を始める場合は、現地の学生と一緒に勉強をする交換プログラムではなく、語学を中心に学べる **Customized Study (CS) Programs** プログラムを検討するようにしましょう。国際教養学部で設置されていない言語圏への留学を希望する場合は、グローバル・エデュケーション・センター(GEC)の科目を受講してください。

GNC (11号館4階)では、非英語圏を含む留学のアドバイス、さらにはキャリアの資料も用意されています。ぜひ積極的に活用してください。

4. 留学の準備

4月入学生の2年次秋からの留学の出願は、入学した年の10月、すなわち入学半年後に行われることになります。希望の留学先に出願するためには、**語学能力**（英語の場合は主にTOEFL-iBTとIELTS）のほか、出願までのSILSでの**学業成績 (GPA: Grade Point Average)**が、それぞれの大学が求める基準を最低限上回っていなければなりません。国際教養学部箇所間協定プログラム（交換留学）への出願のためのGPA算出方法については、国際教養学部の学部要項を参照してください。また留学センター提供プログラムは、別のGPA算出方法が適用されます。前述の「留学の手引き」（留学センター発行）にてご確認ください。さらに、出願ができたとしても、その後の学内選考でさらに学習計画・志望理由書、場合によっては面接などを含めて選抜が行われます。したがって、入学後すぐに留学についての意識を高めて、学業および志望校の検討について真剣に取り組む必要があります。

国際教養学部が提供する留学準備講座「Introduction to Cross Cultural and International Education (ICCIE)」では、各地域の教育事情の紹介の他、留学目的を考えるための内容が用意されています。

5. プログラムの選択にあたって

上述されているように、留学プログラムの選考は、語学能力、学業成績、学習計画・志望理由書、面接での人物評価などを総合的に判断して、上位の学生から志望プログラムの派遣候補者として選出されます。

留学は学生の専門、大学生活、将来の展望に関して、非常に重要な意義をもつものです。なぜその留学先大学を志望するのか、具体的に何を学びたいのか、それは将来にどのようなつながっていくのかを明確にして、大学選びをしていきましょう。もし質問等があれば、アカデミック・アドバイザーに相談するようにしてください。また、「SILS アドバイジング」で、個別に留学の相談を受け付けています。単位認定等に関する質問であれば、SILS 事務所の担当職員に確認しましょう。

また、留学センターのプログラムは早稲田大学のすべての学部・研究科に開放されており、選考試験は学部内の学生との競争のみならず、他学部・他研究科の学生との競争でもあります。この点をしっかりと認識して、語学の向上、高い学業成績の維持、志望理由の明確化など、選考の準備を行いきましょう。

6. 留学までの手続き・日程等

2021 年度の募集に関する日程はおおよそ以下のように予定されていますが、詳細な日程は必ず各学期の留学フェアで発表される「募集要項」を確認してください。特に手続きの遅延は認められませんので、細心の注意を払ってください。

留学の手引き（留学センター発行※）及び当冊子を熟読

※3 月下旬に科目登録関連書類とともに郵送

春の留学フェア	・・・・・・・・・・・・・・・・	4 月・5 月（未定）
* <u>春募集</u> 応募受付	・・・・・・・・・・・・・・・・	5 月中旬～下旬
* <u>春募集</u> 選考試験	・・・・・・・・・・・・・・・・	6 月上旬
* <u>春募集</u> 結果発表	・・・・・・・・・・・・・・・・	7 月下旬
秋の留学フェア	・・・・・・・・・・・・・・・・	10 月（未定）
<u>秋募集</u> 応募受付	・・・・・・・・・・・・・・・・	10 月下旬
<u>秋募集</u> 選考試験	・・・・・・・・・・・・・・・・	10 月下旬～11 月中旬
<u>秋募集</u> 結果発表	・・・・・・・・・・・・・・・・	12 月上旬

「春募集」とは春学期に出願を受け、翌年の春に留学をする学生の選考です。例えばオーストラリアなどの南半球に属する大学のプログラムは、通常 2 月に留学が始まりますので、もしオーストラリアや韓国等の春学期から開始する大学に留学したい場合には、5 月の春募集選考に出願してください。

「秋募集」とは秋学期に出願を受け、翌年の夏または秋から留学をする学生の選考です。海外の大多数の大学では日本の秋学期（通常 8 月または 9 月）から留学生を受け付けますので、特に欧米をはじめとする大学に留学したい場合には、10 月の秋募集に出願してください。

なお、国際教養学部では留学から帰国後の就職活動、およびカリキュラム上の整合性の観点から、「4月入学生」は「第2 Semester」の秋学期に出願をして、「第4 Semester」から留学、「9月入学生」は「第3 Semester」の秋学期に出願をして「第5 Semester」から留学することを推奨しています。ただし、以下の2種類のケースに限って第3 Semesterから留学することができます。

- (1) (4月入学生のみ) 第1 Semester時に春募集の交換留学プログラムに応募して合格した場合
- (2) 第2 Semesterで、半年後の第3 Semesterに出発できるプログラムに応募して合格した場合

7. 【重要】留学の適性判断について

SILS では1年間の留学は必須であり、この要件を満たさない場合は本学部を卒業することはできません。しかし、学業成績不振やその他協定校へ派遣するに相応しくない行為などがあり、学部として留学の開始に適さないと判断された場合、出願後であっても留学の開始時期を延期する措置が取られます。その場合、留学開始までに改善措置を求められ、あるいは、留学の障害となる問題が解消されたと見なされた後、再度出願手続きと選考を経るよう求められる場合があります（留学の延期）。なお、具体的な判断基準としては以下のようなものがあります。

(1) アカデミックプロベーション

1 Semesterでの取得単位が、10 単位未満の場合、次のSemesterにプロベーションとなります。詳細は、学部要項を確認してください。

(2) Grade Point Average (GPA)

GPA は各科目の成績結果から割り出される成績評価の平均値です。詳細は国際教養学部の学部要項を参照してください。国際教養学部では、留学の出願時点でのそれまでの累計 GPA が極端に低い場合には**留学の出願を取り消す場合**があります。

(3) 留学選考に応募した直後の「留学適性判断」

SILS または留学センターでの面接で留学への心構え、授業態度等を考慮した上で、留学派遣に適切でないと判断される場合があります。該当学生には選考前または選考期間中に個別に案内があります。

8. 留学出発前および帰国後の手続き等

詳細は次の表のとおりです。

留学前	
(1) 留学期間・単位・科目登録	
●在学年数の取り扱い	早稲田大学の留学プログラムに参加する場合、在学中に留学できる期間は 原則として1年間 です。留学期間は在学年数に算入します。
●履修単位の取り扱い	留学期間中に留学先の機関において取得した単位は、学部が適当であると認めた場合、 40単位を上限 として認定することができます。
●留学する年度の科目登録についての注意点	留学を予定している年度の科目登録（春）の際、オープン科目のうち、 f-campus などの他大学設置科目（通年科目）を登録することはできません。
(2) 出発前手続	
留学センターの指示に従ってください。留学センターのオリエンテーションに参加すること、書類提出の期限を必ず守ることの2点が重要です。 留学届（出国届）の提出等はSILSでは必要としていません。	
留学後	
(1) 手続	
●必要なもの	<p>すみやかに以下の手続が必要となります。詳細はプログラム終了時期に、国際教養学部ホームページおよびメールにてお知らせします。</p> <p>①単位認定申請フォームの入力（MyWaseda 申請フォーム）</p> <p>MyWaseda にログイン後、国際教養学部ホームページ内のリンクを確認し、留学単位認定申請フォームを入力してください。</p> <p>国際教養学部ホームページ>在学生の方へ>留学>単位認定</p> <p>https://www.waseda.jp/fire/sils/students/abroad/</p> <p>「単位認定の流れ（留学終了直後）」の表内に「★20**年春（もしくは秋）復学者用留学単位認定申請フォーム」があります。</p> <p>※成績証明書に記載のある科目すべてについて記入して下さい。科目数は成績証明書と同じ数でないと申請を受付けられません。また、「授業内容」が未記入、一文だけ等記入が不十分な場合は、審査が行えないため申請として受付けられません。</p> <p>※「その他外国語」科目への単位認定を希望する科目がある場合は、別途その科目の授業時間数（分数）を証明する書類を事務所へ提出する必要があります。この作業を行ってはじめて、MyWaseda での申請が完了します。</p>

		<p>②留学先大学の発行する公式な英文成績証明書</p> <p>*英文がない場合は必ず英訳または日本語訳をつけてください。</p> <p>※必ず学生本人が2通の成績証明書(自分の手持ち用1通、事務所提出用1通)を持ち帰り、国際教養学部^に原本を1通提出してください(郵送可)。</p> <p>※留学先大学より「早稲田大学に一律に送付する」といわれる場合であっても、滞在期間中に入手できない場合は、後日自宅宛に郵送してもらおう手続きをとってください。大学に直接送付される場合でも、いつ届くかは分かりません。単位認定の手続きが大幅に遅れる場合が見受けられますので、必ず帰国前に手続きを行ってください。また、<u>成績証明書の原本は事務所から学生に返却しません。</u></p> <p>③公式成績証明書に記載されない科目の証明書(ある場合のみ)</p> <p>※特に CS プログラムでは、語学の成績が大学の成績証明書とは別の用紙で発行される場合があります。派遣先の大学で確認してください。</p> <p>④学修ポートフォリオ</p> <p>留学中の経験を報告していただきます。</p>
(2) 科目登録		<p>SILS のホームページに掲載される科目登録のスケジュールを確認のうえ、復学する学期の科目登録を行ってください。</p> <p>9月から1年間留学した場合で、出発時に他箇所設置の通年科目を履修していた場合、留学出発年度に登録・履修していた科目と同一科目を留学後に登録することによって履修できる可能性があります。留学前に SILS 事務所にご相談ください。</p> <p>*ただし、留学中に該当科目の設置形態が変わったり、該当科目が開講されなくなったりした場合は、継続履修ができませんので、あらかじめご承知おきください。</p>

9. 留学中に取得した単位の認定について

留学（海外学習期間）中に履修した単位については、以下の基準に従って早稲田大学の単位数に換算して認定します。派遣先の単位数をそのまま認定するわけではありません。

【認定方法】

- ・留学中に履修した個々の科目や成績を認定するのではなく、総合的に判断し総単位数で認定します。下記の例外を除いて取得単位数はすべて「自由選択科目」となります。
- ・単位認定数は、それぞれの参加プログラムにおける、標準履修単位（科目）数（Standard Course Load）を基準にして算出されます。プログラム・オーバービュー等を必ずご確認ください。
- ・派遣先大学において標準履修単位数をすべて取得した学生は、SILS の 2 学期分相当として、平均 32～36 単位が与えられます。
- ・審査では、取得単位数、授業時間数、科目内容、難易度、成績（GPA）、Academic Standing 等を考慮します。

※CS の場合、標準履修単位数に早稲田生のために作られた CS 用科目と現地学生が履修する科目の両方が含まれている場合がほとんどですが、CS 科目の単位制度は現地学生と異なる場合があります。詳細は現地のプログラム担当者に確認してください。

- ・認定された総単位数は、「認定科目（海外学習期間）」 / 「**Transferred (Study Abroad)**」という科目名で、MyWaseda 成績照会において、評価「**P**」（認定）と表示されます。**成績評価（レターグレード）はつきません。**また、早稲田大学の **GPA** に反映されません。成績証明書の「特記事項」欄に、派遣先大学名、派遣期間と共に総認定単位数が表示されます。

私費留学の場合は、科目別に認定単位数と **A+～C** までの成績が審査され、その成績は早稲田大学の **GPA** にも反映されます。また、証明書では **SILS** で取得した科目と同様に、現地で取得した科目名（英語名称）のまま、自由選択科目として、科目ごとにその成績とともに表記されます。

- ・公的な成績証明書に記載されている科目が認定の対象となり、そこには通常の評価（**A,B,C** 等）だけでなく、**Pass** などの表記がされた科目も含まれます。ただし、不合格の科目は認定対象外です。
- ・留学プログラムによる認定可能単位数の上限は **40 単位**です。

【手続き及び必要書類】

① MyWaseda の単位認定申請フォームから入力

※成績証明書に記載されたすべての科目毎の授業で使用したテキスト、授業内容等詳細に具体的に記入してください。

以下の書類を国際教養学部事務所に提出

A. 派遣先大学の発行する公式な英文成績証明書（原本）

※PDF 等の電子ファイルは不可（例外あり）

※英文がない場合は必ず英訳または日本語訳をつけてください

B. 第二外国語の認定を希望する場合は、シラバスの写しや留学先大学のホームページ等申請科目の授業時間数がわかる資料

【認定時期】

年間を通して約 1～2 ヶ月ごとに認定申請を締め切り、その時点で認定に必要な手続きが完了している方の単位認定を行い、その結果を通知します。なお、単位認定の申請には復学の時期ごとの締切りがあり、この締切り以降の申請は認められません。詳細のスケジュールは国際教養学部ホームページで決まり次第、随時発表していきますので、帰国後に確認してください。

（重要）結果通知日程の変更について

なお、締切りの前の期間において、同プログラム参加者全員の提出がない場合、あるいは不備書類や、部分的に成績が出ていない科目がある場合は、締切りに間に合って申請を行った場合でも通知が遅れる場合があります。したがって、締切りごとの通知日はあくまでも最短の目安と考えてください。

【その他】

※外国語科目を「その他外国語」に振替えたい場合

- ・派遣先で履修した第二外国語の単位を「自由選択科目」ではなく、「その他外国語」の科目区分として申請することも可能です。単位数は以下のとおり早稲田大学の単位制度に則って計算します。
- ・「その他外国語」の場合は、授業時間数は 2 単位または 4 単位分を満たす必要があります（1 単位の認定はできません）。

単位数 = 授業時間数

= (週数) × (1 週あたりのコマ数) × (1 コマの授業時間 (分)) ÷ 1350

(※小数点以下は切捨て)

- ・「その他外国語」の単位は、一括認定された留学単位数（自由選択科目）から振り替えます。

例：一括認定単位数（自由選択科目）が 30 単位で、「その他外国語」が 2 単位認められた場合

→「その他外国語」2 単位、「自由選択科目」28 単位（合計単位数 30 単位）

- ・認定された場合 MyWaseda 成績照会では「その他外国語」の区分に「認定科目（海外学習期間）」、評価「P」（認定）として表示されます。成績証明書には「特記事項」に自由選択科目と合算した認定単位数が表示されます。

※インターンシップ・Tutoring・ボランティア活動

①派遣先のカリキュラムとして認められている場合

成績証明書や修了証で証明されている場合は、自由選択科目として認定する場合があります。書類の提出および単位認定申請フォームへの入力が必要です。

②派遣先のカリキュラムとは関係なく行った場合（インターンシップに限る）

インターンシップを行う前にキャリアセンターに申請を行ってください。

インターンシップと認められ、必要要件を満たした場合は、帰国後の翌学期にインターンシップ科目が登録され、単位が付与されます。

※留学直後の学期が延長生に該当する場合の学費について

- ・延長生学費は卒業必要単位数に対する不足単位数をもとに算出されますが、**留学直後の学期は、留学中の科目の単位認定結果は反映されない単位数で決定されます。**

10. [重要] 留学中の学費等納入について

渡航前に早稲田大学の学費等を完納し、留学中も所定の期日までに学費等を納入しなければなりません。学費等未納の場合、留学中であっても退学となります。この場合、派遣先大学での身分も早稲田大学と同時に失い、そのまま帰国せざるを得なくなりますので、学費等の納入には十分注意してください。

(1) Customized Study (CS) Programs

派遣先にプログラムフィーを支払い、早稲田大学の授業料・教育環境整備費・全学グローバル教育費は免除となります。学生健康増進互助会費（各セメスターごとに 1,500 円）は免除されません。納入時期や方法は派遣先によって異なります。詳細は出発前に留学センターよりお知らせします。ただし、留学前の学期の学費はプログラムフィーよりも優先して払う必要があります。まずは早稲田大学の学費等を完納し、次にプログラムフィーを払ってから渡航してください。

(2) Exchange Programs、Double Degree Programs、国際教養学部箇所間協定プログラム

次のいずれかとなります。

- ① (1)と同様、派遣先大学にプログラムフィーを支払い早稲田大学の授業料・教育環境整備費・全学グローバル教育費は免除となります。学生健康増進互助会費（ Semesterごとに 1,500 円）は免除されません。
 - ② 早稲田大学に学費等を支払い、派遣先大学の学費は免除となります。ただし、派遣先大学によっては別途学費以外の費用がかかる場合もあります。
- ②の場合は、早稲田大学の学費は通常と同じく日本国内の口座からの自動振替です。

口座振替日：春学期分 5月1日（延長生は7月1日）

秋学期分 10月1日（延長生は12月1日）

※上記日程が土・日・祝日にあたる場合は、翌営業日となります。

- ・振替約 2 週間前に口座振替通知書を国内の学費支払者に送付しますので、口座に十分な残高を用意してください。学費額は学部要項、国際教養学部ホームページ等で調べられますので、事前に金額を確認してください。
- ・現在ご本人が学費支払者で口座振替通知書を受け取っている場合、海外への通知書送付はいたしかねますので、渡航前に学費支払者を国内の保証人等に変更してください（事務所所定用紙に記入）。
- ・納入方法は口座振替あるいは日本国内での振込用紙による納入のみです。**指定の期日以外の口座振替は一切できません。**

振替メールを受信してから日本の口座に海外送金すると時間がかかり振替日に間に合わないことがありますので、通知を受け取る前に学部要項、国際教養学部ホームページ等で金額を確認し、前もって用意しておいてください。

- ・延長生が早稲田大学に学費等を支払い派遣先大学の学費を免除されるプログラムに参加する場合、卒業所要単位の不足単位数に関わらず、授業料全額の支払いが必要となります。**減額は適用されません。**

11. 留学中の奨学金について

『2021-2022 留学の手引き』（留学センター発行）を熟読してください。

12. 留学免除について

SILS では、1 年間の留学は必須であり、この要件を満たさない場合は本学部を卒業することはできません。しかしながら入学後に重篤な病気などやむをえない事情が発生し、留学が困難な場合は、お早めに国際教養学部事務所までお問い合わせください。

13. 卒業学期について

留学を終了した直後の学期末にそのまま卒業することは原則としてできません。

Q & A

よくある質問（出発前）

Q1 学内選考に合格するにはどうすればよいですか？

特に重要なのは、1. GPA 及び 2. 語学スコアになります。4 月入学者の方の場合、最初の学期の GPA だけが、秋の学内選考で考慮されます。2 年生の秋学期から留学を検討されている場合、最初の学期に登録科目数を増やした結果、不合格科目が多くなると、GPA の低下に繋がり選考では極めて不利に働きます。慎重に科目登録を行うことを強く推奨します。2 学期目に GPA が上向いても、考慮することができません。並行して、TOEFL-iBT (IELTS) を中心に語学スコアのアップを目指すことにより、応募可能なプログラムを増やすことができます。

Q2 春学期出発と秋学期出発の違いは何ですか？

秋学期の方が選択できるプログラムの数が圧倒的に多いことが大きな違いです。春学期出発のプログラムの主な派遣先はオセアニア・韓国等です。

Q3 留学にはどんな種類がありますか？

留学は大きく 4 つに分類され、それぞれ 1. Double Degree Programs, 2. Exchange Programs (EX), 3. Customized Study (CS) Program, 4. 国際教養学部箇所間協定プログラムといます。SILS (SP1) の学生は留学が必須ですが、募集に際して優遇されることは一切ありません。早稲田大学の正規学生を対象に留学センターで一括して募集を行います。国際教養学部箇所間協定プログラムについては、出願の権利は SILS の学生だけに与えられ、独自に募集を行います。

詳しくは留学センターホームページをご覧ください。

<https://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad>



Q4 留学について相談したいのですが、どこで相談に乗ってもらえますか？

初期対応窓口として、22 号館 1 階 WASEDA Global Gate をご利用ください。

<https://www.waseda.jp/inst/cie/access>



Global Network Center では、国際教養学部の学生を対象に相談を受け付けています。

<https://www.waseda.jp/fire/sils/students/support/gnc/>



単位認定と SILS Exchange Program については国際教養学部事務所へお問い合わせください。

<https://www.waseda.jp/fire/sils/students/abroad/>



Q5 留学センターの FAQ（よくある質問）はどこで確認できますか？

<https://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/faq>



Q6 プログラムリストはどこで確認できますか？

<https://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad/programlist/list>



Q7 半期プログラムに2度参加することで、1年留学したことになりますか。

1年留学の必修条件としては認められません。ただし「CAMPUS Asia」というプログラムについては、下記3つの条件を全て満たした場合に限り、例外的に認められます。

- ①所定のセメスターの留学プログラムを2回連続で完了
- ②所定科目の合格
- ③サマープログラムまたはウィンタープログラムの修了

CAMPUS Asia の詳細はこちらをご覧ください。

https://www.waseda.jp/top/about/activities/campus_asia

Q8 奨学金の情報はどこで確認できますか？

<https://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/aid>



Q9 過去の募集の詳細は確認できますか？

以下のサイトにて募集要項（PDF）をご確認ください。今後の募集に際しても、募集要項が毎回アップされますが、内容は現在の募集要項に準じたものになるとお考えください。

<https://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad/1year>



Q10 SILS の学生は全員留学に行けますか？

無条件に留学に行けるわけではありません。学内選考に合格した段階で留学派遣候補者となります。

Q11 留学派遣候補者になると絶対留学に行けますか？

残念ながら、学内選考に合格しても留学派遣が確定するわけではありません。留学先の大学が最終的な受入可否の判断をします。正式な合否通知が届くのが、出発直前となることもあります。

Q12 「留学フェア」とは何ですか？いつありますか？

「留学フェア」は留学センターが毎年2回主催しています。通常、春は4月または5月、秋は10月に開催されています。ほとんどのプログラムの申し込みは留学フェアの後から開始されます。

Q13 留学先大学での学部・専攻分野の選択はできますか？

可能ですが、プログラムによっては制限がある場合もあります。プログラム・リストで詳細を確認するようにしてください。

<https://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad/programlist/list>



Q14 複数の留学プログラムに併願することはできますか？

早稲田大学留学センタープログラム: 7 つまで

国際教養学部箇所間協定: 5 つまで

Q15 出発の時期を教えてください。

「春募集」・「秋募集」とともに出願から約1年後の渡航が基本的なスケジュールです。ごく僅かですが、半年後に渡航可能なプログラムもあります。

Q16 出願はいつ始まりますか、また、どのように出願するのですか？

早稲田大学の留学プログラムへの出願の詳細については、留学フェアで発表します。国際教養学部箇所間協定の申請についてはホームページを確認してください。

Q17 留学は何セメスター目から可能ですか？

原則として、4 セメスター目からとなります。一部、3 セメスター目から可能なプログラムもあります。詳細は募集要項でご確認ください。

Q18 途中（選考後・留学中）で留学先を変更することはできますか？

一切できません。

Q19 学費の相互免除とはどういうことですか？

所属大学の学費を支払うことで、派遣先大学の学費が免除されることを、学費の相互免除といいます。派遣先大学の学費額に関わらず、学生は早稲田大学の学費を支払えば留学することが可能です。

Q20 留学中の費用はどの位かかりますか？

「プログラムフィー」とは、主に Customized Study (CS) Programs で留学する学生が支払う費用です。この「プログラムフィー」を支払うことにより、留学中の早稲田大学の学費を支払う必要がなくなります。地域によって、費用（生活費・交通費・参考書・保険等）異なりますので、申請の前に必ず確認してください。

Q21 実際に留学した人の話を聞くことはできますか？

同じプログラムに参加したことがある先輩学生や現在留学中の先輩学生、今回留学先が同じプログラムである同期学生と連絡を取りたい場合、所定のルールに沿って留学センターが連絡を取り次ぎます。ただし、年度によってプログラムの内容が変わることもありますので、先輩学生と全く同じ経験を繰り返し体験できるとは限らない点をあらかじめご理解ください。詳しくは Waseda Global Gate へ問い合わせてください。

Q22 私費留学とはどういうことですか？

国際教養学部では既存のプログラムでは対応されていないプログラムに限って、私費留学を認める場合があります。審査に時間を要するため、渡航希望時期の半年前までに事前に相談をしてください。留学先への出願手続きを含め、全ての手続きを自分で行うこととなります。また早稲田大学からのサポートは受けられません。単位認定をしない限りは、私費留学の期間は、在学年数に含ませることができません。加えて、単位認定料も発生します。負担は大きいので、慎重に出願をご検討ください。

Q23 TOEFL のスコアはいつまでに取得すればよいですか？

TOEFL テストのスコアが要件となっている留学プログラムで留学しようとする場合、原則として留学開始時の1年以上前には、すでに各プログラムが要求するスコアを持っている必要があります。例年、8～9月の試験日が予約で埋まる傾向があるので、早めに受験しておくことをお勧めします。また TOEFL-ITP は正規のスコアではありませんので、一部の限られたプログラムでしか使用できません。積極的に TOEFL-iBT を受験してください。

Q24 TOEFL のスコアが出願後に切れてしまいます。大丈夫でしょうか。

再受験が必要な場合もあります。また再受験結果が学内選考出願時の点数を下回ってしまった場合は、留学先大学からの受入許可が出ない可能性もあります。その場合、別の大学への出願もできませんので、注意してください。

Q&A

よくある質問（留学中／留学後）

Q25 留学中に保証人（または学費支払者）の住所、電話番号が変わったのですが、大学への届出はどうすればよいですか。

留学前に「保証人と同居」していた場合は、MyWaseda にて変更してください（menu-Profile-学生基本情報変更から申請）。留学前に「保証人と別居」していた場合は原則として事務所所定用紙にて届け出ていただくことになっていますが、留学中に限り、Eメールでの住所変更を受け付けます。sils-ac@list.waseda.jp へメールをしてください。本人確認のため、必ず WASEDA メールアドレスから送信し、メールには学籍番号と氏名を明記してください。

Q26 すでに早稲田大学で単位を取得した科目と似た授業、もしくは同じ科目名の授業を履修したいと思っているのですが、その場合も単位を認定してもらえるのでしょうか？

留学中に履修する科目については、特に制限はありません。帰国時に成績証明書に科目名・単位数・評価が記載されるものについては、原則として単位を認定します。

Q27 留学中どんな科目を取ったらよいですか。

公式成績証明書に記載がある限り、単位を認定します。ただし、ほとんどの科目が語学科目や体育科目の場合、講義科目よりも難易度が下がる場合が多いので、認定単位数が少なくなる可能性があります。

Q28 留学中、前期に単位を取得した科目を後期にも履修したいと思っているのですが、その場合は早稲田大学ではどちらも単位として認定されるのでしょうか？

原則として、一度単位を取得した科目の再履修は認められませんが、何か特別な事情があり、かつ成績証明書に記載されるのであれば、認定される可能性があります。

Q29 日本語クラスの Teaching Assistant (TA)をしています。こちらの大学では単位として認められているのですが、早稲田大学では認定を受けられますか？

成績証明書に記載されているのであれば、認定される可能性があります。

Q30 鳥インフルエンザの蔓延やテロの発生等、実際に起こったらどうしたらよいですか？

早稲田大学では、過去に SARS・新型コロナウイルスが流行した時に、留学中の学生に帰国勧告を行ったことがあります。その他の伝染病やテロ等についても、大学側は留学中の学生の安全を考えて「速やかに帰国せよ」との指示を出す場合があります。万が一のときは、派遣大学と早稲田大学からの指示に注意し、必ず従ってください。

Q31 留学中の学費支払いについて教えてください。

渡航前に早稲田大学の学費等を完納し、留学中も所定の期日までに学費等を納入しなければなりません。

Q32 留学中アルバイトはできますか？

多くの国でアルバイトは、ビザの制限により禁止されています。留学期間中にかかるおおまかな予算計画を立てるとともに、現地ではアルバイトに頼る生活にならないよう、学費や生活費を負担する方（ご家族・保証人など）とよく相談をしてください。もしくは、自分自身で早めの資金計画を立てましょう。

Q33 留学期間の延長はできますか？

定められた留学期間を終えた後は、原則本学に復学する必要があります。

Q34 単位認定では何単位くらい認定されますか？

単位認定数は、それぞれの参加プログラムにおける、1年間の標準履修単位（科目）数（Standard Course Load）を基準にして、取得単位数、授業時間数、科目内容、難易度、成績等を考慮のうえ、科目ごとに成績とともに算出されます。なお、留学先大学において1年間の標準履修単位数をすべて優れた成績で取得した学生は、SILSの2学期分相当として**平均 32～36 単位**が与えられます。最大認定可能単位数は**40 単位**です。留学に複数回出発することは可能ですが、認定単位数の上限は変わりませんので、ご注意ください。つまり1年留学して36単位の認定を受け、さらにもう1年留学をして最初の1年と同じ成績を修められても、認定される単位数は4単位が上限ということになります。残りの32単位分は認定されず、早稲田大学で単位を修得する必要があります。

Q35 帰国後に行う手続きを教えてください。

必ず単位認定手続きを行ってください。詳細は国際教養学部のホームページ（在学生の方へ→留学）をご確認ください。

Q36 留学を終了した直後の学期末にそのまま卒業することはできますか？

原則、卒業できません。

以上

国際教養学部

School of International Liberal Studies

<Japanese>

<https://www.waseda.jp/fire/sils/>

<English>

<https://www.waseda.jp/fire/sils/en/>



Published by the School of International Liberal Studies

April 1, 2021

©WASEDA University All Rights Reserved